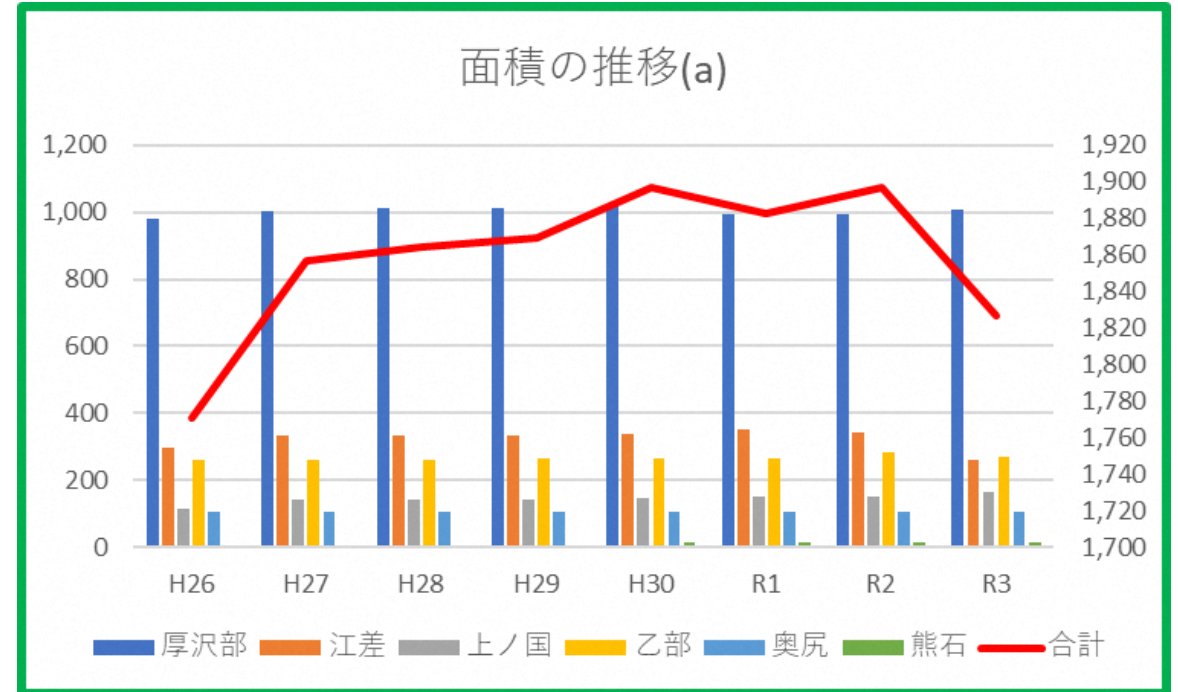
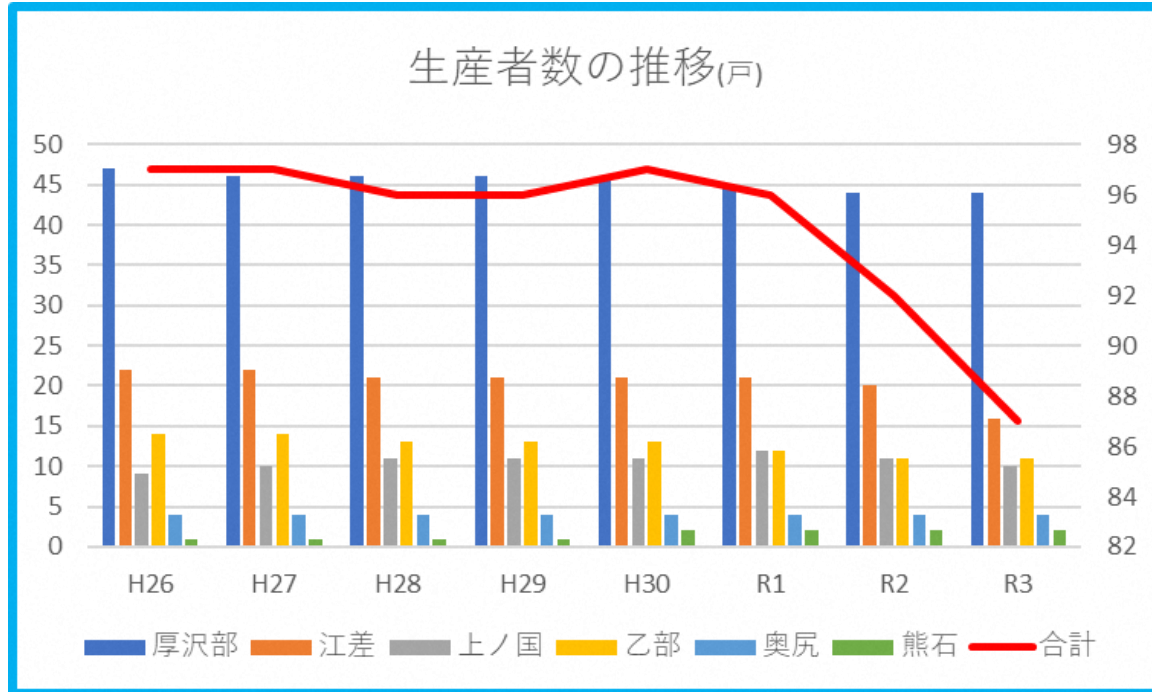




ハウス立茎アスパラガス 自動灌水・施肥試験

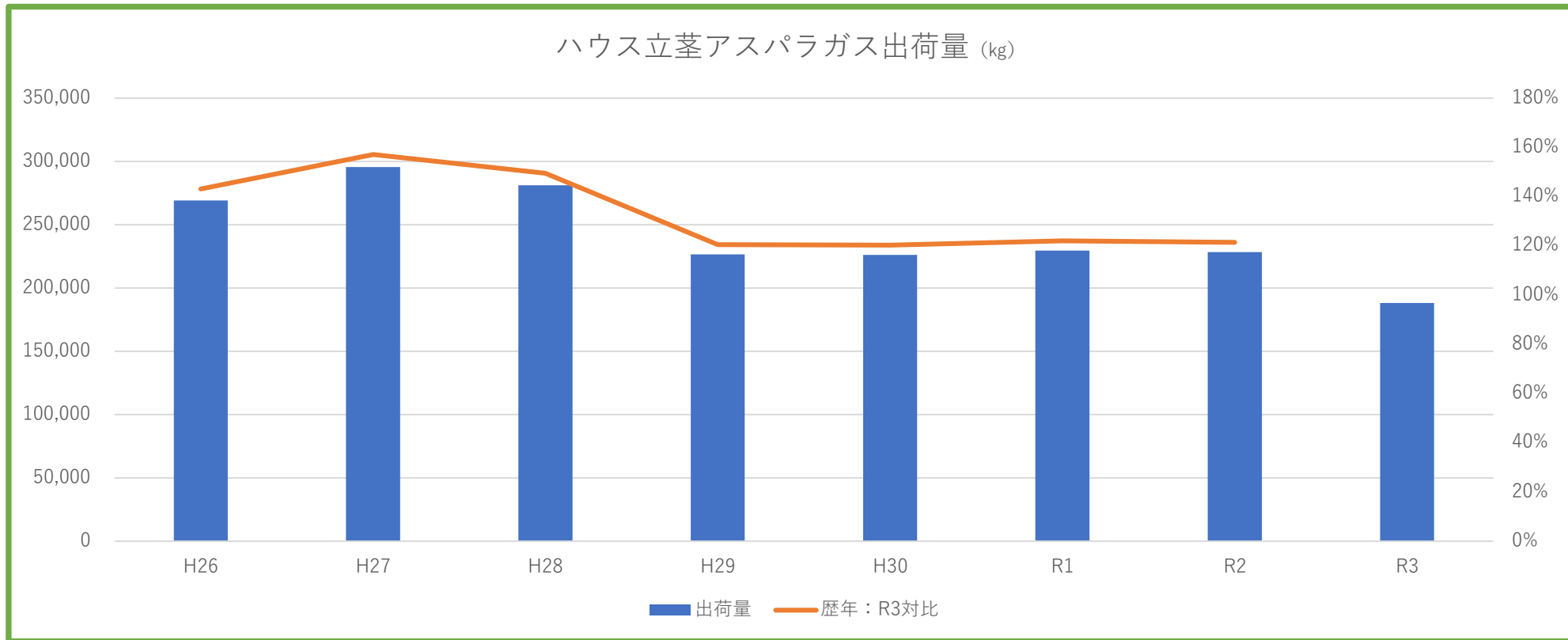
厚沢部町 農に生える推進協議会

アスパラ生産組合全体の生産者数、面積はR2年度から減少しているが、厚沢部町は対策により維持している



R2年度で江差町の30棟を超えるハウス団地が解散した事から全体面積が減少
 厚沢部町は国費事業を活用し半額助成措置により16棟(1624坪)を新設
 また、新規就農者の受入により、この5年間で3戸のアスパラ新規生産者を誕生させた

檜山南部地区のアスパラ生産量の推移



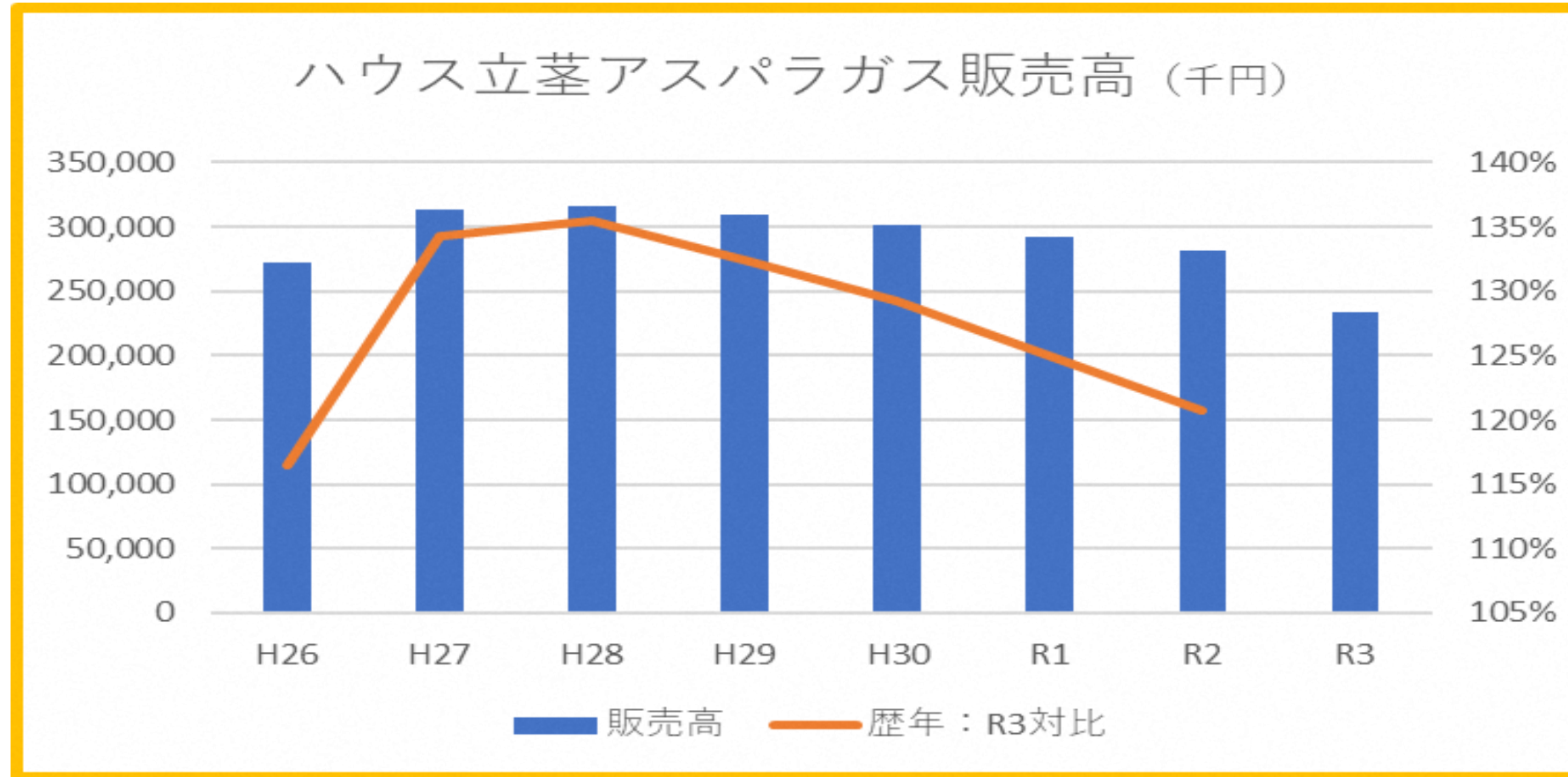
直近8年間の販売高推移

H27年を堺に下降傾向にある

R1, R2年と回復の兆しも見られたが

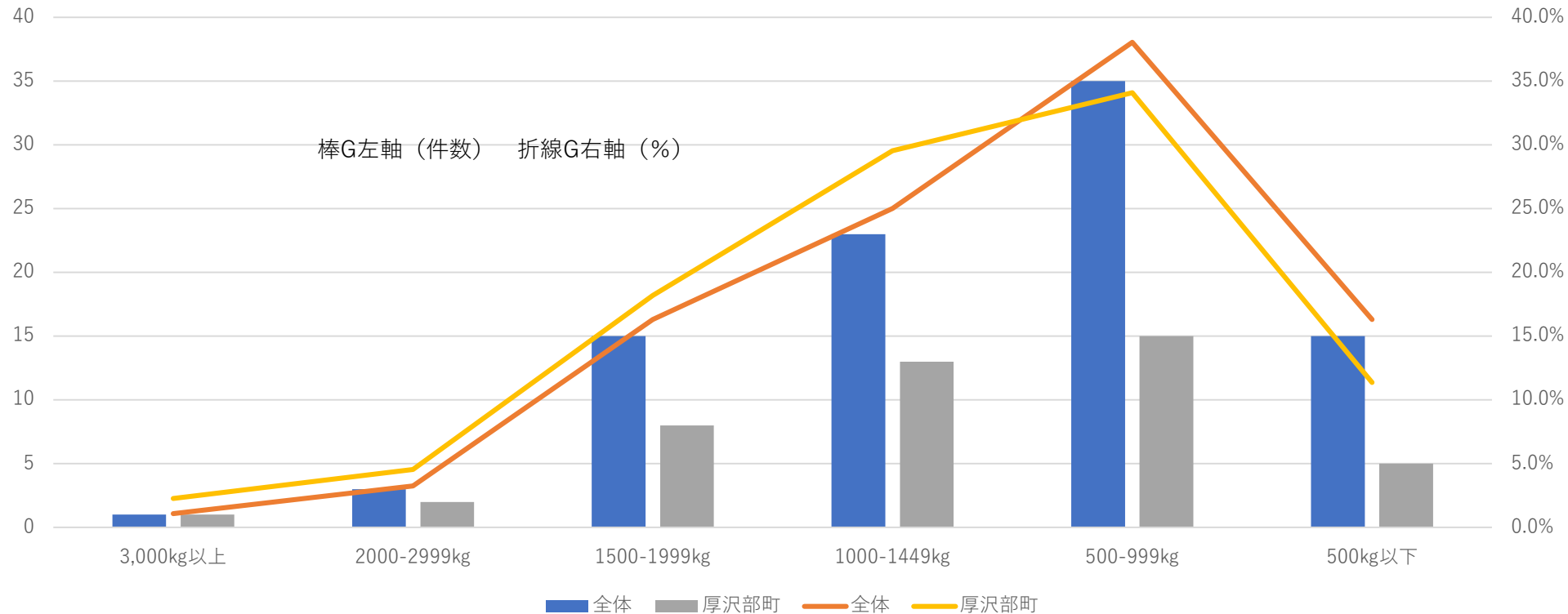
R3年度は春芽が全く振るわず、猛暑の7月のみ増加傾向であったがその他の月は前年実績を上回っていない。

檜山南部地区のアスパラ販売高の推移



直近8年間の販売高推移 H28年を堺に下降傾向にある
平均単価は安定しており1,200円/kgを毎年上回っているが、
前述のとおり生産量の減少が販売高に影響しており、過去最低の販売額
R2年産はコロナ禍の影響で春芽単価が10%程度下がっている。

生産者別の10a当たり収量分布



反収上位者には厚沢部の生産者が多い。

10a当たり1,500kg以上の割合は全体で20%、厚沢部町は25%

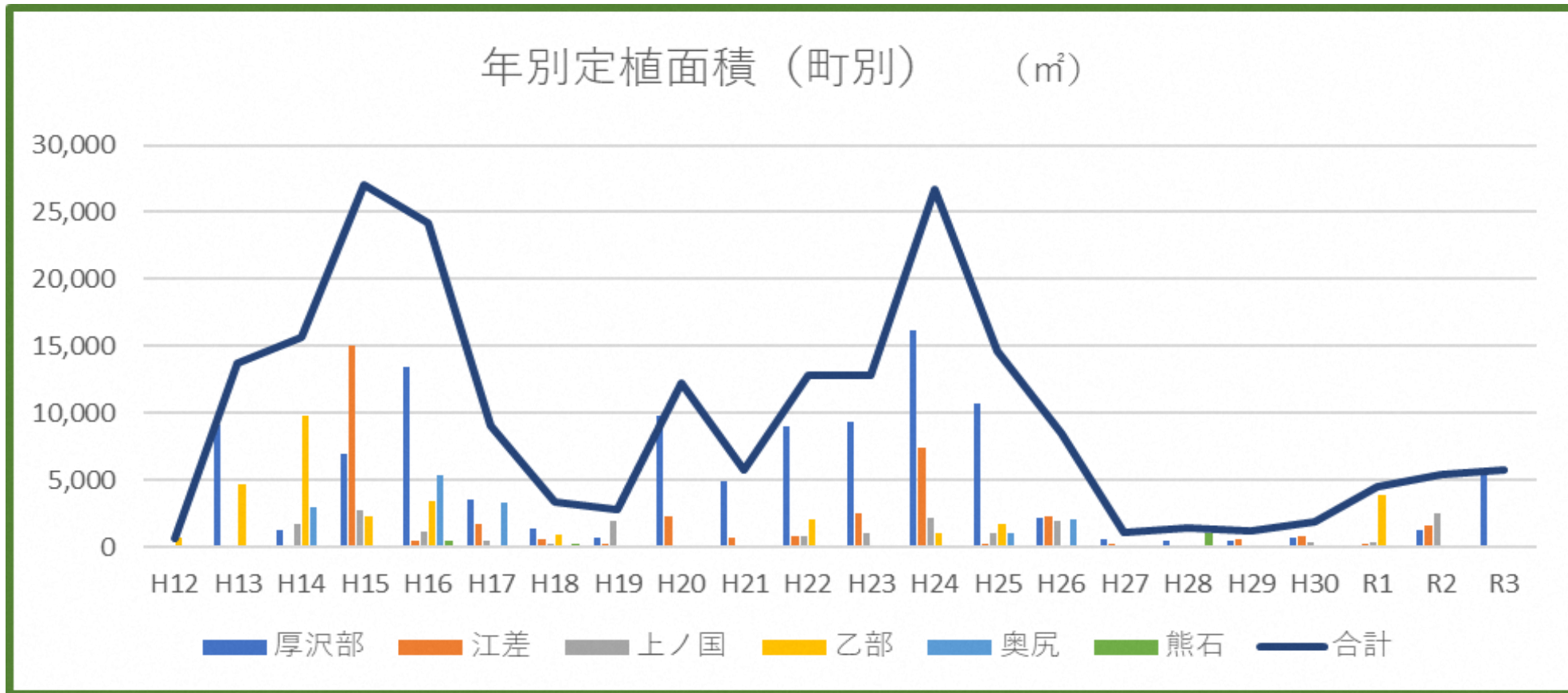
厚沢部町は平成20年代に作付け開始した生産者が多い。他町と比べて新しい株が多い事が反収が多い要因とも考えられるが、2,000kg以上の反収生産者は全員、平成10年代に作付け開始しており、株の経年劣化だけが、収量減少の原因ではないと考えられる。

収穫量が伸びない原因は？

- ①株の経年劣化、欠株による収量の低下
- ②秋の気温が高くなって9月以降に養分を消費してしまう
- ③灌水量、追肥量が不足している
- ④野菜や米などの作業との兼ね合いでハウス管理が不十分
- ⑤労働力不足で手が廻らない
- ⑥病害虫の発生による影響



株の経年劣化!?



厚沢部町のアスパラ栽培開始はH12年以降、H16、H24、H25と補助事業によるハウス設置で大きく面積を延ばしている。シート5でも記載したが、反収のトップ者はH13年に定植しており、H20年代に定植したハウスよりも収量をあげており、単純に経年だけが反収減の要因ではない。



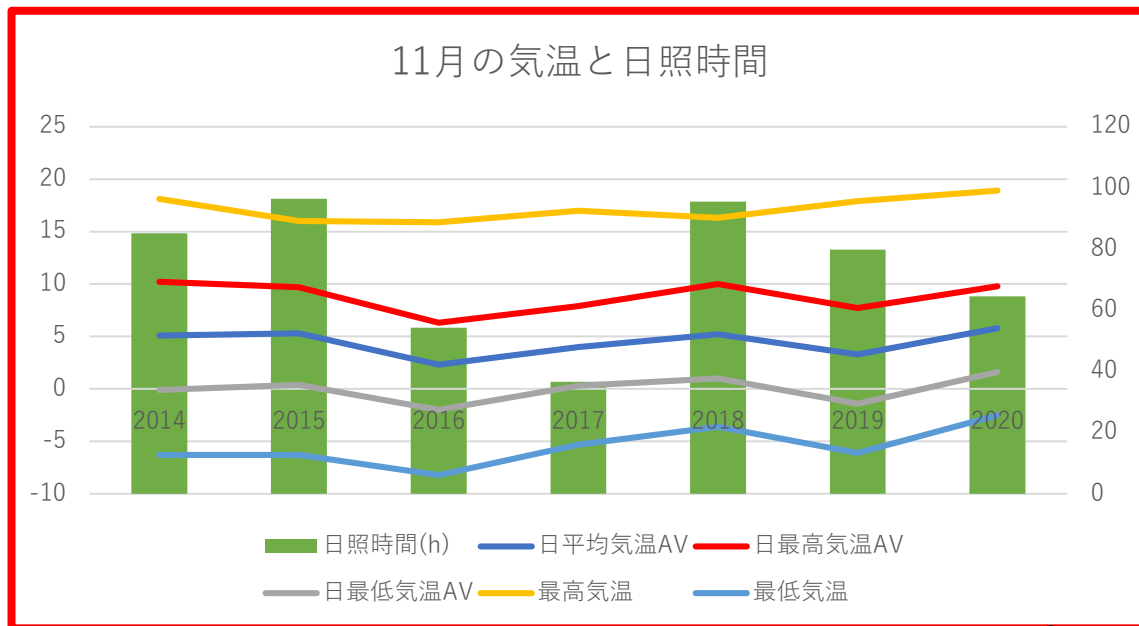
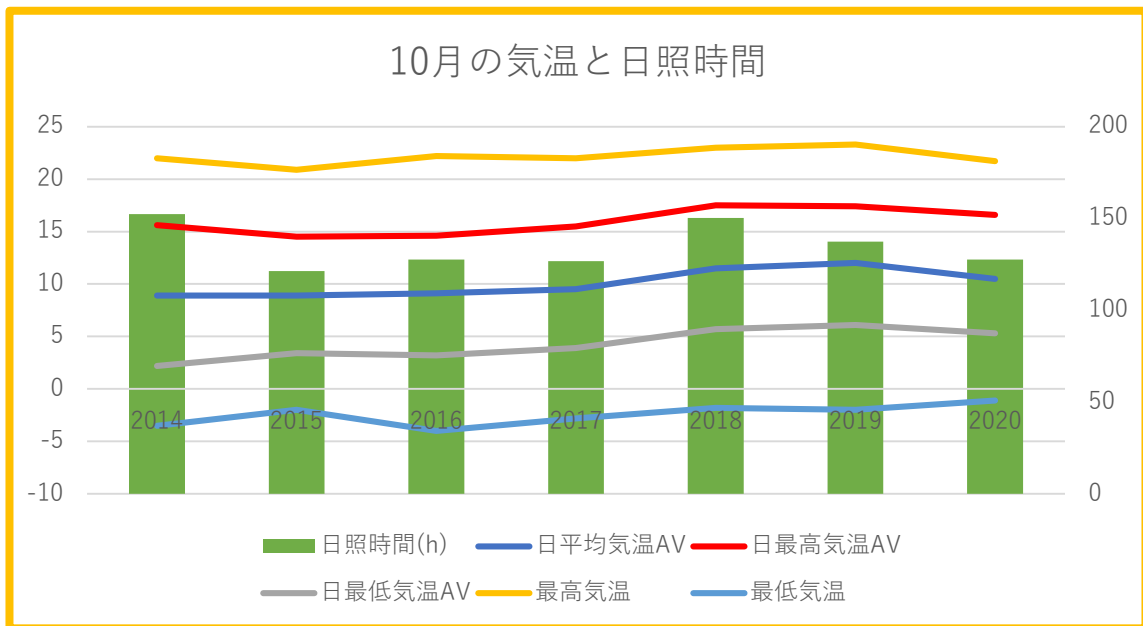
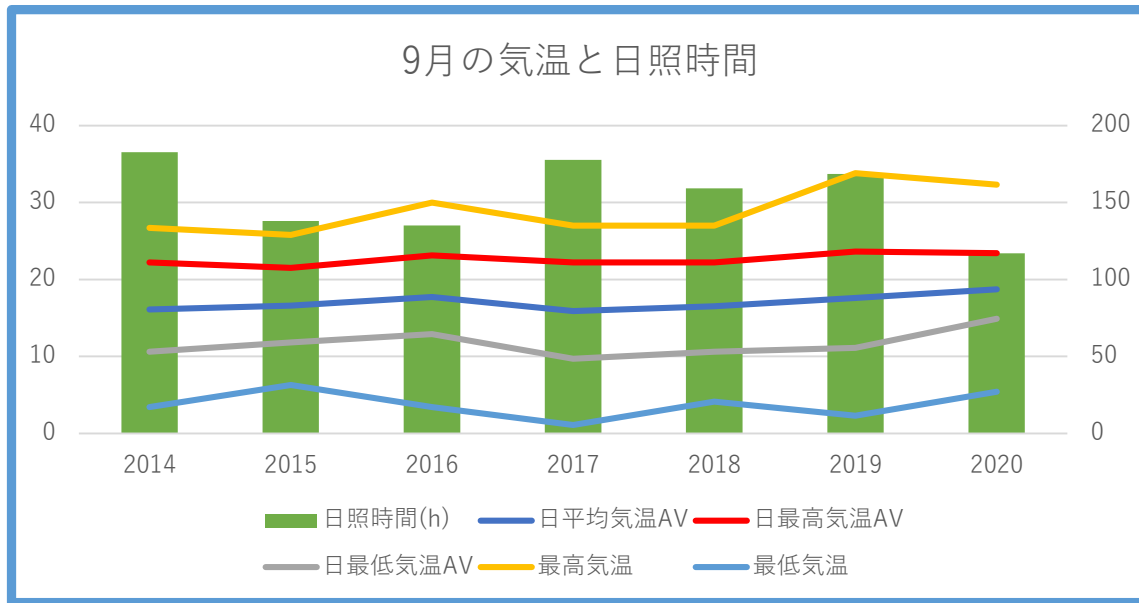
秋の気温が高くなっている



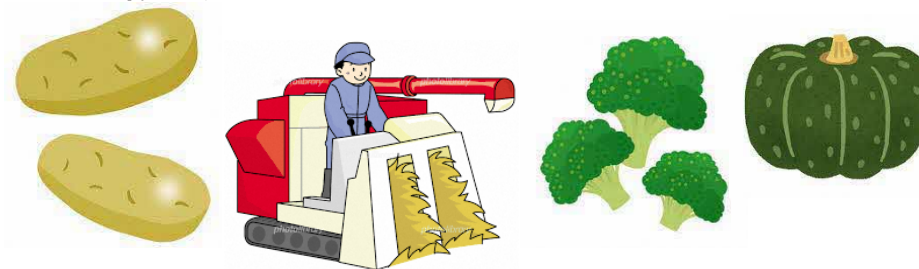
9月、10月の最高気温が上昇しており、秋が長くなっている印象。

秋が長いと折角貯め込んだ養分を生育で消費してしまい、翌春の春芽量に影響すると言われております。

ここでも秋の繁忙期におけるハウス管理を、どう徹底できるかが収量確保のカギです



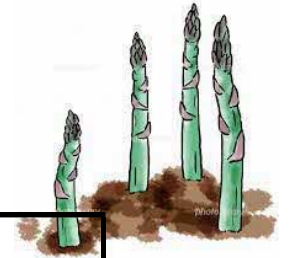
夏から秋は畑作、水稲など収穫期を迎え ハウス管理が難しい



アスパラ反収上位者の作付け内容(R2年度)

ランキング	生産者	R2反収	水稲	豆類	馬鈴しょ	南瓜	ブロッコリー	Sコーン	ヤマゴボウ
1	厚沢部1	3,270	○						
2	厚沢部3	2,826	○		○	○			○
3	厚沢部2	2,201	○		○	○			
4	厚沢部6	1,896		○	○	○	○		
5	厚沢部7	1,802	○						
6	厚沢部4	1,786		○	○	○		○	
7	厚沢部8	1,642		○	○	○			
8	厚沢部5	1,622							
9	厚沢部10	1,574	○		○		○		
10	厚沢部11	1,558			○	○			

反収トップ生産者は気象条件も 他の作物の作業も乗り越えている



反収トップ10

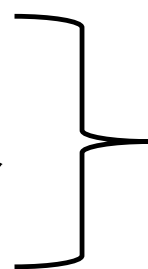
順位	H26		H27		H28		H29		H30		R1		R2	
	生産者	反収	生産者	反収	生産者	反収	生産者	反収	生産者	反収	生産者	反収	生産者	反収
1	厚沢部1	2,947	厚沢部1	2,871	厚沢部1	2,773	厚沢部1	2,397	厚沢部1	2,592	厚沢部1	3,362	厚沢部1	3,270
2	厚沢部2	2,652	上ノ国1	2,610	上ノ国1	2,688	江差4	2,243	厚沢部2	2,298	厚沢部3	2,513	厚沢部3	2,826
3	上ノ国1	2,452	厚沢部2	2,585	厚沢部2	2,499	厚沢部2	2,185	厚沢部4	2,256	厚沢部6	2,397	厚沢部2	2,201
4	江差1	2,330	厚沢部4	2,249	厚沢部4	2,369	上ノ国1	2,179	厚沢部3	2,032	上ノ国2	2,154	江差2	2,052
5	江差2	2,142	厚沢部3	2,237	江差1	2,247	厚沢部3	2,109	江差2	1,796	厚沢部2	2,092	厚沢部6	1,896
6	江差3	2,098	上ノ国2	2,236	厚沢部3	2,243	江差6	2,103	上ノ国2	1,733	江差1	2,032	上ノ国4	1,827
7	乙部1	2,092	江差2	2,193	江差4	2,109	江差1	2,026	江差4	1,721	江差2	2,025	厚沢部7	1,802
8	厚沢部3	2,066	江差1	2,183	江差6	2,050	江差7	1,705	江差1	1,714	江差4	1,910	厚沢部4	1,786
9	江差4	1,980	江差4	2,120	乙部2	1,946	乙部2	1,682	乙部3	1,625	厚沢部4	1,827	江差7	1,721
10	厚沢部4	1,974	江差5	2,084	上ノ国3	1,940	奥尻1	1,660	厚沢部5	1,611	厚沢部5	1,826	厚沢部8	1,642

農に生きる推進協議会での検討事項

☆ ICTを活用したセンサー・機械制御で

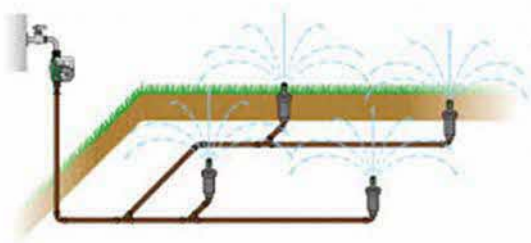
理想的な灌水・追肥が出来ないか!?

- ・ 日射センサー連動の自動灌水
- ・ 土壌水分センサー連動の自動灌水
- ・ タイマー式の自動灌水
- ・ 自動灌水と連携した液肥での追肥
- ・ 反収トップ生産者の管理方法の見える化



生産者の考え方、栽培環境に合わせた自動制御方法の選択

⇒ 数値化して組合内で共有する



農に生きる推進協議会での実施事項

- ①アスパラ栽培ハウスの増棟事業 4戸 16棟 (1,624坪)
総事業費 48,000千円の1/2助成
- ②自動灌水制御試験の実施 4か所 (4戸)
設備一式 27,000千円
- ③自動灌水制御の普及対策